

次期堺市中区地域計画（計画案策定に向けての考え方）について

Q 計画案策定に向けての考え方（計画案策定の考え方をはじめ、将来像実現のための重点事業、各分野別要素、成果指標（KPI）の内容等）について、ご意見ください。

| | |
|--------|---|
| 伊藤 久美子 | <ul style="list-style-type: none"> ● 将来像実現のための重点事項の中での深井駅周辺地域活性化事業は工事も着々と進んでいる中で、期待値も高く、どんなロケーションになるのか？また便利で利便性のいい場所に生まれかわれるのかの期待値も上がってきていると思うが、南海沿線上の方々にも深井駅で降りていただける魅力発信も同時に必要だと考えます。 ● 分野別要素における子育てについても、前回の会議で区民の方々の生の声を聞いてみるのが大切だといったように、20代～40代の子育て世代にはあまり、魅力あるまちとは思われていないようであり、再開発をきっかけにより若い世代や子育て世代が利用しやすい、映えるまちにしていくことが必須だと考えます。 ● 分野別要素における福祉についても、区民アンケート結果を見ると「相談支援」という観点からは居場所や相談先の明確化が図れていないように思われる。もっとわかりやすく寄り添ってもらえる体制づくりが急務かと思う。 ● 分野別要素における安全については、区民アンケートでも災害意識も高く、防災訓練にも積極的に参加されていて、住みよい中区をめざしているのではないのでしょうか？また、中堺警察署が出来たおかげで治安にも充分関心が高まり、更なる犯罪や事故の少ない中区に期待が寄せられている。 ● 分野別要素における環境についても、深井駅前や花のこみちなどの景観も良いと区民アンケートも書かれているように、関心も高く、地域清掃やごみ拾いなど清掃活動にも関心が高いようである。 ● 分野別要素における歴史文化については、区民にはあまり関心もたれていない様子。まだまだ周知が足りないからなのか、せっかく歴史あるものがあったても、認知度が低ければ区民だけではなく、堺市民にも興味を持ってもらえないのではないかと？もっと積極的に宣伝、PRするイベントなどの開催も計画してみてもいいのでは？また常設展示の場所も増やしていくなどの整備は必要かもです。 ● 分野別要素における健康については、区民アンケートでも健康増進や健康についての関心が低そうである。 乳がん検診やその他の健診や体力測定など、だれでもが受けられる健康診断や健康相談の機会を増やしていけば意識も高まるのではないのでしょうか？ ● 分野別要素における交流についてはだんじりや区民フェスタなど、お祭りも多いせいか関心事が高いようです。 広報さかいや自治会の回覧板や掲示板からも情報が徹底されていることが伺えます。 |
|--------|---|

| | |
|--------------|--|
| <p>今西 千晶</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 福祉の分野における、高齢者、障害福祉の充実についてを新設した、地域包括や基幹包括の高齢者総合相談件数でみていくことができれば、区民アンケートに応じないかもしれない実際の孤立している方や困窮している方の数値に近づけると思います。包括支援センターで把握の地域課題となっている複合多問題（精神疾患、認知症、経済的困窮、引きこもり）を抱えている人たちの把握や、福祉につなげることができるのではないかと思います。安心して暮らせる街をめざすために、地域課題分析をいくつも重ねることで、課題整理や課題解決にむけて地域包括支援センターは地域ケア会議を行っています。情報共有や連携をしていくことで福祉部門の充実につながると思います。 また、独居高齢者も増えており、中区は9705人います（令和6年3月までの数字です）介護保険サービスを利用しないと生活ができない方も増えてきており中区の介護保険認定者8394人中、利用者は7392人だそうです。安心して暮らすためには福祉の充実は大きいと思います。 ● 健康分野については、健康に興味がある人は多い（KPI値70%超え）ことは安心ですが、新設された特定健診の受診率について、実際の課題につながりやすいことなので、良いと思います。 ただ、長生きすることではなく、健康で長生きをする、ということが課題となるという意識が、病気の早期発見、早期治療につながると思います。 |
| <p>今村 憲一</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 水質池公園の整備では、新しい施設ができることに期待している話を地域でも聞くので、完成されるのが楽しみである。ただ、青少年指導員の立場からすると、施設ができた後、特に夜間に子どもたちが集まったりする場とならないように注意が必要であると思う。夜間でも電灯で明るくするなど、暗がりさせない取組が必要ではないかと思う。 ● 防犯では、特殊詐欺の話はよく聞き、身近なものであると思う。甘い話は必ず詐欺だと思わないといけないし、特殊詐欺を意識した取組は進めてほしい。 ● 防犯では、普段の活動から考えると、今の時代に合った対応が必要になると感じている。子どもたちでも、色々な家庭事情が関係していたりするケースもあり、単純なものではないと感じる。夜間に公園に集まるグループの中には、男の子も女の子もいるため、どのような声掛けをしていくかも日々考えながら活動している。 ● 防犯や治安の向上のためには、行政や警察の取組だけではなく、学校や地域が連携して行っていないとなかなか上手くいかないと思う。特に、地域と学校が連携を行うことで対応が上手くいった事例もあったため、その観点は重要である。 |
| <p>太田 佳世</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 子育ての分野についてですが、『堺市は子育てしやすいまち』の問いかけの、子育てしやすい…とは何を指しての子育てしやすいをイメージされているかが世代の中のイメージが違うのではないかと思います。 未就学児童を持つ世代は子育てしやすいと感じている世帯も多いように思いますが、学童期の世代になると治安も含め、子育てしにくいというよりは不安要素がたくさんあると考えられている世帯が多いようです。 |

| | |
|--------------|--|
| <p>金澤 正巳</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 深井駅周辺地域活性化事業について、地域でもどんな施設がオープンするのか楽しみにしている声を聞く。水賀池公園の整備をしっかりと進めてもらいたいし、オープン前にもどんな施設になるのかを地域の人に周知して良さを分かってもらえれば良い。 ● 安全分野では、地区防災計画の策定校区数を目標にすることは良い。地域での防災訓練では、今年は規模も大きく大々的に進めている。有名な気象予報士を招いたり、防災グッズの販売を行ったり、参加者を呼ぶために工夫を凝らしている。今まで訓練に参加していない人をどう呼び込むかが重要だと考えている。 ● 歴史文化では、区が行う取組はもちろん大切ではあるが、だんじりや祭りなど地域で古くから根付いた歴史や文化、伝統が各地域にあると思うので、そういった地域の良さを次世代にしっかりと継承していくことも大切だと思う。 ● 健康でいることは何よりも大事だと思う。しかし、健康だけを取り組むのではなく、地域で交流することが健康につながり、福祉につながり、子育てにもつながることがある。計画で言っている各分野は、別々ではなく、連動していくと思うので、その視点を持つことが必要。 ● 交流分野では、自治会加入率とあるが、防災訓練を気軽に参加してもらったり、祭りにきてもらったりと地域への交流をやすくすることで良さを知ってもらい、結果的に自治会加入につながれば良いと思う。 |
| <p>木本 隆夫</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● (子育て) 地域では、よつばる一むで子育て相談など親子で気軽に集える場所があり、そういった取組は大事だと思う。 ● (福祉) 地域のふれあい喫茶では、50～100人くらいの出席があり、多くの方に利用いただけている。福祉の観点だけではなく、交流や健康といった分野にもかかわると思う。 ● (安全) 地区防災計画の策定は目標にすることは必要であるし、目標になかったとしても着実に進めていくべきである。なお、各小学校区での取組に加え、今後は中学校区での関わり方や連携も必要になってくると考える。 ● (環境) 自治会など地域での環境意識は高いのと、事業所など会社の方々の意識も高いと思っている。事業所の前を清掃する活動も見られる機会があるので環境意識は高まっていると思われる。 ● (歴史文化) 地域の歴史的な遺跡など、次世代に継承していくのは大切だと思う。 ● (健康) がん検診などの受診は重要だと思うので目標値に設定したことは良いと思う。あと、地域では、高齢者の健康増進のためにラジオ体操を実施しているので、そういった取組も良いと思う。 ● (交流) 自治会のことを知る機会が減ってきていると思う。地域では小学校と連携して、数年前から総合学習の時間を活用し、小学校に赴き、地域のことを子どもたちに教えている。そういった取組は良い取組だと感じる。 |

| | |
|---------|--|
| 竹井 進 | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルサイネージの活用 映像表現を配信できる媒体、デジタルサイネージリアルタイムでの情報更新が可能でメッセージを効率的に伝えられる。 ● 地域活性化 市民サービスの情報や災害・防災情報の提供 イベント情報の配信、観光促進 観光客誘致や地域経済の活性化につなげる。 インバウンドの誘致にも貢献できる。 ● タイムリーな情報発信 地域内の観光スポットや特産品情報を魅力的に紹介し、市民の利便性を高める。 広告枠を企業に販売する事で広告収入を得ることが出来る。 |
| 田重田 勝一郎 | <p>子育て分野：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 主な取り組み内容の中に不登校の問題も入れてほしい。関連するSDGsのゴールが今回も入るのかは分かりませんが、「4. 質の高い教育をみんなに」を入れるのであれば、子育て世代に教育の機会をきちんと確保していくことを方針に含めてほしい。堺市内の不登校者数は令和5年度調査で2151人となり、毎年増加の一途をたどっています。区として不登校の子どもにも居場所と学習の機会を確保していく姿勢を盛り込んでほしいと思います。 ● また、現行方針に入っている、「特別な支援を要する子ども・家庭への支援」が削られてしまっているが、子どもの貧困の問題は近年ますます深刻になっています。 子育て等に関する相談体制の充実はもちろん求められるのですが、不登校や貧困、障害を抱える子どもなど特別な支援を要する子どもへの支援は方針として削るべきではないと考えます。子どもの自殺の問題も深刻です。令和6年度の子どもの自殺者数は全国で527人と過去最高を更新しました。いのちの大切さを伝える取り組みの推進はぜひ継続していただきたいと思います。 |
| 巽 真理子 | <ul style="list-style-type: none"> ● 各分野に定量的なKPIが追加されたのは、明確でわかりやすい。 ● ただ、交流分野に新設した「自治会加入率」は、目標が数値で示されず「現状値以上」となっている。政令指定都市の全国平均加入率などを参考にして、具体的な数値を設定した方がよいのではないか。 |
| 谷村 修 | <ul style="list-style-type: none"> ● 「福祉」の分野に「健康」を取り入れることは、具体的な指標として有効かと思う。例えば、これから高齢者となる方が増加傾向にあり、要介護状態になることをできるだけ防ぐという点や、健康や認知症などでの相談件数などの点を挙げてみてはどうかと思う。また、今期にもある高齢者や障がい者への理解を深めるということは、地域において引き続き必要な取り組みだと思う。 ● 「福祉」分野において、相談支援を充実することは、独居の高齢者が増えていることや、障がい者で身寄りがない方、経済的に困窮した方などが相談支援によりつながりやすくなるよう取り組みとして必要だと思う。 |

| | |
|--------------|--|
| <p>仲氏 昌平</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 区民アンケート回答結果からも明らかとなり、水が池公園を中心とした深井駅周辺の活性化が重要と考えます。 定期的な①イベント開催を行うことで、イベントに携わる関係者や地域ごとでそれぞれ行っている方々との連携が図れる。②中区住民が自然と集える場所となれば、今までと違う形で貧困家庭やその他課題を抱えた方々への支援も可能となる。 ● ①定期的なイベント開催については年間12か月それぞれ1か月ごとに開催主体を変更することで持続可能性が高まると同時に、関わる関係者も増える。その中で同じ思い(中区を良くしたい)の方々が集まりやすい。また、イベントのマンネリ化を防げる(活性化) ※週末はキッチンカーウィークなど定期開催 一部の団体に利権が集中しない、公平性が担保されやすい、また、それら以外に継続する中で顔の見える関係作りがスムーズにでき、必要に応じた中区独自のセーフティネット作りができる。 ● ②中区住民へ自然な形で啓発やその他取り組みなどの発信ができる。発信の中で、地域企業との連携による取組なども含まれる。 例えば、地域飲食の方々とコラボして対象の方には、特典をつけるなど。 それぞれがウィンウィンになる仕組みづくり、持続可能性。 |
| <p>松居 勇</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 前回の会議で意見としてあった定量的な指標や客観的な指標の設定に関しては、全ての分野で新たに定量的な目標値が設定されていたので、良いと感じた。 ● 今後の経過観察として、客観的な指標の上げ下げに影響して、主観的な指標の数値がどのように変化していくのかを考えていきたい。 ● 各分野別要素のKPIについて、目標値は過去の増減率などを踏まえて設定されていると思われるので、概ね良いと思う。 高い数値になっている項目については、どこかで高止まりする傾向が一般的にはあると思うので、単純に増減率を踏まえるだけで良いのか、より細かく数値を分析して少し目標値を見直す必要があるのかを一度検討してみても良いのではと感じた。 また、低い数値になっている項目についても、単に増減率を踏まえるだけではなく、プラスアルファの上乗せを検討してみても良いのではと思われる。 |
| <p>森田 裕之</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 全般に関して、定量的な指標を新たに設定することは良いと思う。 ● 今回の見直しでは、指標として全般的に結果変数の要素が多いが、具体的な取組を行う際には、区の実施が直接関係するコントロール変数の要素も踏まえて、取組の成果を確認していく必要がある。 ● 子育てや福祉においては、連携数や相談件数だけが成果を測る唯一のものではないと思うので、具体的な取組を行う際には、対応件数や対応率といった観点を見るなど、取り組んだことがきちんと反映されているのか、結果がどうだったのかを確認することが必要である。 ● 健康の分野では、市民意識調査による特定健診の受診率の指標に加えて、区としても把握できるがん検診などの受診率を指標として加える方が良いと考える。 |

| | |
|--------------|---|
| <p>鷺見 直子</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 将来像実現のための重点事業である深井駅周辺地域活性化事業について、水賀池公園の整備を着実に進めることは良いことである。ただ、公園整備中は今までウォーキングや犬の散歩などで公園を利用していた方が利用できないことになっており、犬の糞尿の不始末など弊害もでてきていると感じる。公園整備完了後の取組はもちろん期待しているが、整備期間中についても、様々な対策をとった上で、着実に事業を進めてほしい。 ● 福祉の分野において、相談件数を新たな目標値にすることは良いことだと思う。具体的な取組においては、相談の体制を充実させていくことに期待している。区役所だけではなく、例えば、新しく整備される水賀池公園など、地域の方が気軽に立ち寄れる場所に相談ブースやスペースを設けてはどうか。 地域で話を聞く中では、相談をしたいと本人が思っておらず、適切な相談につながっていないケースもあるため、事前のきっかけづくりが大切だと思う。 ● 健康の分野において、福祉の内容とも被るが、気軽に相談できる環境を作っていくことが大事だと思う。取組方針でも相談機会の提供が挙げられており、次期計画でも具体的な取組を期待している。 |
| <p>足立 悠真</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 環境の分野における花や緑などの自然環境に魅力を感じている人が多いという意見は大切にすべきであり、水賀池の周りに咲いていた桜の花も残しておくほうがいいと思う。ほかにも春以外に咲く花や、紅葉するものなど季節に応じたものが駅の周辺にあればさらによくなると思う。また、それほど大規模なものではないにしても、そういった植物の見ごろに出店や屋台などがあっていいと思う。 ● 原池公園の運動場もよいが、バーベキューエリアが施設もきれいで非常に良かったので、こういった家族でも友達とでも全員が楽しめる施設を増やしていくべきだと思う。 ● 歴史文化の分野において、堺市は千利休が有名であるが、行基も同じくらい有名なはずなのに土塔を知っている人が少ないように思えた。駅から少し距離があるのでレンタル自転車の置き場を作ってみたりすると少しは知名度が上がるかもしれない。 |
| <p>狩野 史門</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 深井駅周辺地域活性化事業については、KPIが定量的であるため事業の効果が分かりやすく記載内容のとおりにすることが望ましいと思った。 ● 交流の分野におけるKPIについて自治会加入率とあるが、今後、具体的な取組を行うにあたっては、他にも地域活動団体の数や参加数といった数値がどのくらい向上したかを用いるのも有効なのではないかと考える。 |

| | |
|--------------|---|
| <p>小西 響</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 前回の区政策会議の意見であった指標の具体化がなされており、以前より感覚的でなく、データに基づいた指標が生まれ、達成度などが分かりやすくなったと考える。 ● 深井駅周辺地域活性化事業とりわけ水賀池公園の再整備で様々な分野の取り組みをすることでKPIが上昇する場所になると考えられる。それにより中区内外の人が深井駅周辺に訪れるようになることはいいことであるが、まず、住民に喜ばれ、地域にフィットするような場所になればいいなと考える。 ● 現在、水賀池公園や八田荘住宅など再開発がポイントごとで行われており、個々の開発は魅力的だと思う。ただ、それを徒歩で繋ぐラインをもう少し整備する必要があるように感じる。そのため、重点目標に掲げる歩行者空間の形成をすることは駅前からあるポイントやポイント同士のアクセスが向上することで、より利用者の増加や快適性などが上昇すると考える。 ● 福祉分野における新設した質問で相談件数があるが、この相談件数はそもそも増加することが好ましいものなのか、相談件数が減ることが良いこととも捉えられると考える。そのため、相談内容のポジティブ、ネガティブ、質といったところが重要となるかと考える。 ● 交流の分野で自治会の加入率の指標が生まれることで、指標からわかる地域住民同士の繋がりが可視化され、いざとなったときの防犯、防災の体制を考えることができると思う。 ● 交流と言ってもイベントなどで生まれる多世代の交流など注目されがちであるが、単身者など地域や近くに知り合いがいない状況の人のために同世代の交流などもあるとより繋がりの希薄化が防げると思う。 |
| <p>西條 陽菜</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 環境の分野におけるごみの不法投棄について、以前から水賀池に浮かんでいるごみが多く、汚いと感じることがあった。これは水賀池だけに限らず他の池などでも起こり得るのではないかと思う。こういったごみが捨てられている場所には少くも大丈夫という意識を持ちやすく、さらに投棄量が増加すると考えられるため、道路や公園への大型のごみの投棄に対する対策に並行して水辺へのごみの投棄に対する対策を考えることや定期的な掃除を行うことできれいな池を保つことで捨てにくい環境を整えることが町の美化に繋がるのではないかと考える。 ● 福祉の分野におけるKPIについて、福祉の手から取りこぼさないために高齢者が相談しやすい体制を整えるというのは大切であると思うが、相談件数の観点だけにとらわれず、具体的な取組を行う場合には対象者の支援制度の利用割合などもどう向上したかを把握するとよいのではないかと考える。 |

| | |
|--------------|---|
| <p>佐藤 由夏</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 交流の分野における「地域課題解決力の強化」については、KPIが10%も大きく増加しているものの、より力を入れるべき分野だと考える。 地域のつながりの希薄化は犯罪件数の増加や人口の減少、住民の孤立などさまざまな問題の原因となり、他の目標とも関係する。地域のつながりをより強くするためには顔見知りを増やし、住民同士が協力できる環境を作ることが必要である。伝統的な祭りの活用、自治会への支援により交流の機会を積極的に増やすことができると考える。私の住んでいる地域では小学校や中学校へ地域のボランティアが赴き、出前授業をすることで世代間交流を図るといった催しがあった。学校や広場など、人が多く集まる場所で地域交流を行うことは効果的ではないだろうか。 ● 基本方針に情報の発信・受信それぞれの強化とあるが、引退した世代がよりスムーズに情報を受信できることが広報や防災においては最も重要であると考え。より多くの人々が情報に日常的にアクセスする環境を作るには世代交代に伴い自然に情報化社会に移行することに加え、アプリの普及活動やスマホ教室といった自治体からの働きかけがより必要であると考え。 |
| <p>武内 柚葉</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 水賀池公園の整備については、駅に近いという立地を活かして、計画のとおり新たなシンボルとなる施設の設立が望ましいと考える。幅広い世代の居場所としての役割を果たすことができれば、深井駅周辺のさらなる発展が期待できると思う。カフェなどの施設を設置することに加えて、住民が自らイベントを企画運営できるような「レンタルスペース」のようなものを設置するのも一案ではないかと考える。 ● 安全の分野における防災について、区の魅力であると感じている人が多いことに驚いた。中区に住む学生としては、自ら情報を取りにいかない限り防災の情報が入ってくることはほとんどないと感じている。最低限の避難場所などは把握しているが、危険な地域はどこでどのような対策が望ましいのかなどはわかっていない部分が多い。大学などと連携して、一人暮らしの学生に対する防災の意識も高める必要があると感じている。 |
| <p>山崎 桜愛</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 深井駅周辺の活性化事業について、深井に足を運ぶことはこれまでなかったので、これをきっかけに足を運んでみたい、と感じる人も多いと思う。情報が届かない状況を避けるため、効果的な広報の手段について検討できそうだと感じる。 ● 子育ての分野において、当事者（子育て世代）からの意見を募るため、子育てカフェのような親子が交流できる場を、アクセスがしやすい場所に開設し、そこにアンケート用紙などを置いておくことと実際の声が聴けるのではないかと。 ● 歴史文化の分野において、文化財の存在に関してほとんど何も知らないの、イベントなど身近に感じる取り組みはとてもいいと思う。 また、地元の人たちの認知度を上げるには、教育を巻き込んだ取り組みも効果的ではないか（小学校で注染の体験・現場の見学を行うなど） |